



宝永小だより

No.6

福井市宝永小学校

令和8年6月24日

学校教育目標：ひとり立ちできる子 ～心身共にたくましく、進んで学び合い、高め合う児童の育成～
めざす児童像：進んで学び合える子・協力し合える子・心と体を鍛える子・ふるさとを大切にする子

改めて「自転車の安全な乗り方」を学ぶ

5月21日(木)・22日(金)

本校の子どもたちは3

年生のときに学校で、警察署の方をお招きした自転車教室を受けていますが、その後は、お子様と保護者の方の責任において自転車を使用しています。また、令和8年4月1日より、自転車の改正道路交通法が施行され、16歳以上の自転車利用者に「交通反則通告制度（青切符）」が導入されました。



＜自転車の乗り方を再確認する様子＞

そこで、4年生から6年生の子どもたちが自転車の基本ルールをおさらいすることを目的に、福井警察署からお借りした「自転車の安全な乗り方」の動画を視聴しました。自転車の歩道通行は例外（例えば、子どもたちには認められている）であり、車道の左側を通行する必要があること、すべての自転車利用者に対してヘルメットの着用が努力義務化されていて、特に子どものヘルメット着用は強く求められていること、自転車の事故に遭わない、そして事故を起こさない安全な乗り方、さらに自転車の点検方法などの内容を再確認できました。子どもたちには自転車のルールをしっかり守り、安全に気を付けて自転車に乗ってほしいと思っています。

＜4年児童の感想＞ 自転車は、きちんと正しく乗って、あぶないことはぜったいにしてはいけないということが分かりました。自転車では必ずヘルメットを着用してから乗ることと、交差点では信号と一時停止を守って、安全確認をして乗るように気をつけようと思いました。また、車道が原則、左側を通行、歩道は例外、歩行者を優先することを守ろうと思いました。

＜5年児童の感想＞ わたしはこの動画を見て、一時停止などが今まで守られていなかったと思いました。あと、「ブタはしゃべる」の点検をしたことがないので、また今度やってみたいと思いました。歩行者がいらないからといって、いつもスピードをたくさん出し過ぎて、曲がるときに大きくなっていったので、これからは気をつけたいです。

＜6年児童の感想＞ 自分が事故を起こすこともあると分かったから、もっと気をつけないといけないと思いました。自転車の点検の仕方「ブタはしゃべる」など、3年生で習ったことを復習できてよかったし、これからはしっかり点検してから乗りたいです。スピードを出すと曲がるときに大きく曲がってしまったり、急に止まらなかったりして危ないと思ったので、スピードを出し過ぎないようにしたいです。

6年生 ブランド化野菜について学ぶ

5月22日(金)

福井市園芸センターの職員をお招き

して、福井市の園芸振興のため、現在特産化を目指している金福すいか、サラダのヒロインきゃろふく、ディノケールなどの野菜について、話を伺いました。普段、福井市園芸センターでは、野菜・花・果樹の試験研究をして新しい品種を開発したり、園芸講習会を開催したりしていることを教えていただきました。また、実際に金福すいかやきゃろふくなどを栽培している農家へ出向いて、病気の診断をしたり栽培の仕方を指導したりすることも大切な仕事であると、紹介を受けました。

その中でも福井市園芸センターでは、福井市生まれの黄金色に輝く小玉種なすいかである金福すいかの栽培と販売に力を入れている、と強調されました。金福すいかは立体栽培で、地面につるを這わせるのではなく、ワイヤーや紐につるを固定し、空中で果実を育てる方法を取り入れており、通常の地這い栽培の約2倍の密度で苗を植えることができるそうです。その後、果実がソフトボール大の大きさに育ったら、「玉吊り」という作業をしていて、ネットや紐に入れて空中につるすことで、果実の落下を防ぎ、均等に日光を当てるように栽培している、と教わりました。また、最も重要な作業は限られた栄養を1玉に集中させ、美しい色と高い糖度を引き出すための適切な「間引き」で、金福すいかの栽培における「間引き」は2種類だそうです。その一つは芽引きで、子づるを3本に絞る「整枝（せいし）」と、もう一つは良質な実を1～2個に厳選する「摘果（てきか）」です。子どもたちは「摘果（てきか）」で摘まれた、テニスボールほどの大きさの金福すいかを触り、そのツルツルの感触を楽しんでいました。



＜金福すいかを触る子どもたち＞

金福すいかが福井市の逸品であることを知り、福井の食の魅力を新たに感じる体験となりました。

1年生 年長児と春の交流会

5月25日(月)・6月5日(金)

本校では、校区内の4園(聖徳幼稚園・

尾上幼稚園・聖三一幼稚園・北部保育園)と園小連携・接続の取組をしています。その取組の一つである交流活動「すなやつちとなかよし」を実施しました。5月25日(月)は聖徳幼稚園と尾上幼稚園との年長児と本校の1年生が、6月5日(金)は聖三一幼稚園と北部保育園との年長児と本校の1年生が校庭にある砂場で、どろんこ遊びを行いました。

本校に入学して2ヶ月ほど経った1年生と年長児の子どもたちが顔を合わせ、穴掘りや泥のままごとごっこ、大きな山づくり、湖や川づくりなど、子どもたちがやりたいどろんこ遊びを思い存分、楽しみました。やりたい遊びを介して1年生と年長児の子どもたちがつながり、自然と小グループができあがっていきました。また、よく似た遊びをしていた小グループ同士が一つになり、遊びが広がるとともに、子どもたちのつながりも広がりました。年長児とどろんこ遊びを一緒に楽しんだ思い出は、1年生の子どもたちにとって、異学年交流での成長を促すきっかけとなったのではないかと感じました。秋にも、交流活動を予定しています。1年生の子どもたちがさらに成長して、お兄さんやお姉さんとして大いに活躍する姿が楽しみです。



<5月25日の子どもたち>



<6月5日の子どもたち>

2年生 足羽山どんぐりプロジェクトに参加する

5月26日(火)

2年生の子どもたちは、昨年の10月24日に福井市環境政策課が進めている「足羽山どんぐりプロジェクト」の趣旨説明を受けて、どんぐり種子のポットへの植え付け作業を行いました。このプロジェクトは、環境学習と里山保全を目的に、足羽山の環境保全の一環として取り組んでおり、足羽山から採れたどんぐりから育てたコナラ等の苗木を植樹する活動です。子どもたちはこの日、春に発芽したコナラの苗を大きいポットに植え替えました。子どもたちは、植え付けたどんぐりから苗に育った様子に驚くとともに、2~3人のグループで丁寧にやさしく植え替え作業を進めていきました。大きいポットに植え替えられたコナラの苗は、協力企業が引き継いで育ててくださるそうです。



<苗を植え替える様子>

6年生 『百笑の塩』に学ぶ

5月27日(水)

6年生の子どもたちが総合

的な学習の時間に取り組んでいる『福井の魅力を伝えよう!』の一環として、『志野製塩所』の見学に出かけました。志野製塩所では、福井市の越前海岸沿いにて海水を汲み上げ、お塩を作っています。この塩は、天然塩「百笑の塩」と呼ばれています。

志野氏は「2019年に福井へ移住してきました。釜戸も一から手作り、山海の恵みが詰まった豊かな海水を濾過し、丁寧に薪火で焚き上げて結晶化したお塩です。少し粗めで、しっとりしたお塩は、素材の味を存分に引き出してくれます。さっと浅漬けや、炒め物の味付けにぴったりです。また、油との相性が良いので、サラダをオイルとお塩で食べたり、焼いたお肉にシンプルにふって食べたりすることもおすすめです。あとに残るほのかな甘みにも、越前海岸を凝縮した旨味を感じることができると思います。」と、子どもたちに話してくださいました。さらに「季節によって塩の旨みや甘みなどの味わいに変化があるので、その特徴も楽しんでもらえる逸品です」と、子どもたちに語りました。



<塩の結晶を目の当たりにした子ども>

<6年児童の感想>私は、塩をなめてみて予想以上にしょっぱかったです。また、私は機械でやることが多いのだろうなと思っていたのですが、ほとんど手作業なのがすごいと思いました。だから「百笑の塩」は他の塩も美味しいけど、手作業でやっているから美味しいのだろうなと思いました。

4年生 福祉に関する体験学習が始まる

5月27日(水)

子どもたちは総合的な学習の時

間に、「福祉」についての学習を始めました。今回は、福井市社会福祉協議会や福井中央北包括支援センター等の皆様にお越しいただいて、高齢者疑似体験に挑戦するとともに、認知症についても学びました。

【高齢者疑似体験】子どもたちは、腕や足におもりなどを装着し、老眼や白内障を体験できるゴーグルをかけて、体育館を歩きました。高齢者の身体的特性を実際に体験することで、高齢者への理解を深めていました。

【認知症サポーター養成講座】子どもたちは、認知症になるとどうなるか、認知症の方にどのように接したらよいかなどを学びました。学校から帰って来て宿題をしていると、認知症の祖母から何度も日にちを聞かれる孫という設定で、どう対応したらよいかを考えました。また、紙芝居のたけピーこと 池田 武 様が福井中央北包括支援センター職員として紙芝居「ぼく わすれてないよ」を口演してくださいました。子どもたちは認知症のおじいさんと孫のやり取りから認知症の方との望ましい接し方を理解しました。授業後、子どもたちは、受講証明として、キッズサポーターカードと、手作りの「ロバ隊長」(認知症サポーターキャラバンのマスコットキャラクター)のマスコットをいただきました。



<高齢者を疑似体験する子ども>